（製品開発担当）：ハンノキは入手可能。８m^3は調達可能。チャンチンも長野から８m^3は調達可能。
（委員コメント）：では、センダン３２m^3、チャンチン８m^3、ハンノキ８m^3、ユリノキとチャンチンモドキで２m^3を使って試作品を製作しましょう。

（専門委員長）：事業の概略の説明があった。
（需要開発担当）：国産早生樹のブランド化を行い、利益の一部を次世代の植林費用に充てるなどの方策を考えたい。
（委員コメント）：そのような戦略を持って取り組む必要がある。
（需要開発担当）：木の良さを明確化する取り組みも必要。印刷物と比較して国産広葉樹の良さをもっと PR したい。
（委員コメント）：使用する木の特徴を消費者にもわかりやすく提示し、その木のストーリー性を感じながら使っていけるような仕掛けが必要。適材適所で造林をしても良いのではないか？

（委員のコメント）：この事業の背景に、輸入される広葉樹材の不安定さが挙げられているので、国産広葉樹育成の重要性を訴える必要がある。スギ、ヒノキだけではなく、早生広葉樹も育成した方が良い。調査③の早生広葉樹造林の可能性に力を入れた方が良い。
（技術開発担当）：スギ伐採跡地や耕作放棄地等で植林すればかなりの量が確保できるのでは？
（委員のコメント）：宮崎県では早生広葉樹も含めたスギ伐採跡地の問題を検討している。
（事務担当）：今回は第一段階として早生広葉樹の可能性を検討しているが，第二段，第三段を期待している。今回の体制は産官学になっているので今後も期待できる。早生広葉樹は西日本では認知されつつあるが，本事業が公表されれば日本で認知されるので，期待している。
（製品開発担当）：現状はほとんど外国産材が使われているが，材料調達が難しくなってきており，更には中国が大量に購入するため入手が困難になっている。中国産の広葉樹輸出が減少し，欧米に限定されつつあるので，国産早生樹に期待している。家具等で品質が保

証されれば大いに期待できる。
（委員のコメント）:マホガニー等ではすでに人工林が行われているので，国内で早生広葉樹の人工林の試みは良いのではないか。順調にいけば将来的に十分供給できるのではないか。地球を見渡すと、広葉樹人工林は低緯度地域で既に成功している。中緯度地域で広葉樹人工林を成功させることは学術的にも意義がある。
（需要開発担当）:中緯度で広葉樹の植林を是非行いたい。日本でも広葉樹で行えるチャンスが到来した。
（委員コメント）:利用を考えた育種も是非検討すべきである。

（３）第２回専門委員会（平成２７年３月６日開催）

（事業責任者）:本事業の締切が迫る中、試作品の納品、報告書の作成に向けた資料の収集等でご尽力いただきたい旨、説明があった。
（製品開発担当）:チャンチンを入手し、単板、複合フローリングを製作した旨の説明があった。材面はケヤキに似ており、堅く、ツキ板にするとカールするため、お湯に浸けてツキ板にするのが良い。チャンチンはお客さんの評価が高いようだ。
（製品開発担当）:ハンノキを入手し、ツキ板製作の上、無垢 15mm のフローリング材を製作した旨の説明があった。材色は白で、黄色から茶色へ変化する。生材状態が長いほど変色し、お湯で温めると綺麗な色になる。
（製品開発担当）:チャンチンモドキとユリノキを入手し、試作品を製作中である旨の説明があった。ユリノキの利用には問題ない。チャンチンモドキは早く製材しないと割れる。すぐに商品化するのは難しいのでは。
（専門委員）:大分県の研究でも割れが問題であるとしている。熊本県のチャンチンモドキを研究した例では、個体により落ち込みが発生するが、こんな激しい割れはなかった。育種をする必要があり、すぐに商品化は難しいかもしれない。
（技術開発担当）:センダンの資源量について、末口径２０cm 以上は２１０m^3あるが、３０cm 以上になると５０m^3しかない。利用径

に達するには最低１０年はかかる。
（製品開発担当）：現状では、自生木の利用も視野に入れるべきでは？　一般に３ｍの直材が望ましいが
（専門委員）：自生木では樹形が傘型になり、３ｍ の直材がとれるかどうか。
（製品開発担当）:短くても径が大きければ利用できるかを検討する必要がある。
（製品開発担当）：持ち主と市場の価格差が大きいのも問題である。
（専門委員）：国内では広葉樹の育種研究は少ない。用材利用のための育種研究はないのでは？　この事業を契機に広がることを期待する。
（製品開発担当）：日田のユリノキ 17 年は十分な成長で問題ない。
（製品開発担当）：チャンチンは 20 年で 40cm ほどになり、成長は良いが、すぐに倒木する。
（技術開発担当）:広葉樹は環境林が普通で、用材林がないのが現状。熊本県ではセンダンに加えて、ケヤキ、ヤマグリ、カシ（イチイガシ、アカガシ）、ミズメを有用広葉樹として奨励している。
（製品開発担当）：早生樹がどこから出てくるのかわからない。調査してないのだろうか？
（専門委員）：各都道府県にアンケート調査を実施したが、クヌギ、コナラ、ブナなどの馴染みの樹種はわかるが、それ以外は「その他の広葉樹」に分類されているので、わからないと思う。
（技術開発担当）：最近はクヌギが増えている。シイタケの生産が落ちてクヌギが大径化している。
（製品開発担当）：東北はコナラが多い。
（専門委員）：里山問題で、クヌギやコナラに利用の話は聞きます。